博異志奇事異話

へ遠13
1.460
4

遠へ13
番 1460
号 4

怪異前席夜話巻之四

○ 枉死の冤魂離別報ずる話

享保の頃の士。穂津英官次郎。江都
の藩邸に。おりしむる。猪逢信州。飯田の
ふ。ものしかりて。は貶ふ。嘗ふ。およびれ。宿怨
とあり。その東隣。陸奥三弦
弄し。曲をうつふ。女性。
し。深夜。塵もとび。怪魚も出て。同ゑんとおもふ。
えんもいハ。宝ものれい。七宝。性中。花の姿
ふるらめし。狐魂。嘶し。飛蔦。垣ふ

くるおとこ。さすがに士の。他は亭中に閑んもて
ゆくふぜひ。つくづくと眺めぐらして。手まさぐりに
ひらて。もだし考てゐるうちに。曲も止み寂寞
としてゐる人のあるとも覺えぬ。ばかりに。灯
人靜まる。潛ふ気配。そつと候ふに。灯
てあり。心とゝめき。徐徐と障子押明けて入る
る。妻端麗なる女。帥なる。ふさぐ。ひらる。
能楽入しと覺えて。鼾聲。微かに。腦移れ
ふるひ。眼に穿ける。ゆゝしく。木人ぶるとも。客に
いそうて。いそうの毒龍を制やんやと。ゆるる

玄関靜かにとて。通入る。女おどろきて醒て。誰何
人中に。士妻なる。事ふてそれは隣亭の接客。
響ふ君。激妙の事。閑。墓山くく。たゝひ誰
ともなくぬひの藥塗れ果てすむ人なりとも。一
樹の影も苟且ならぬ。ぬき孫と思ひ。一
臭赤心。毎下ふなしとぬひて。やうて女。抱
ひしらば。あくまでやうろふ處る光景。れく。歎語
事を。ぬして。屑ふ。ぎぶ妻ぶ。ひらる
ふ。さよ。妻。ぶ。実。れふ。ぬ。妻
萍。根。ふ。徒。引。ぬ。門。折。ふ。

しふ者作ふべし。但さらに低をめ也。其外は穴あき
言ふ事はなきやとて。いそぎ外作り出をれを
とゝ思しなり。曙日は抵ひふえんふべ。さ為〳〵
風説は。多羽玉の国に東は永人の心してうくを
斗し給ふ。ふゝんと。ひつ。ふ比翼は翅ならぬ。
枝をゝ中夢はちに。鶏もけしよりも国中騒
みを。すこし睡眠紀むて。はとをしめて如ら
都と。如のゝりにうて。あれば。妹右と恵ひ
をて開ゝ両眼は。ぶをてらうやはを。梦
ゝ。ぶ。ぶ隆嫌母もうれふべ。おろ

しを中ふふ。醜悪を宝帰をたよおろうよ。是ハ
しぶ今を蜀をも者ふ。方れく。をての聲女
をうも早曉のをゝあし。旅宿は知をれふ
此女は見をてをふ。通すぶ思ふ我一時の淫
欲ををうふれ〳〵の女。をも五官缺をるの女
をゝば。夫婦の契約ふやゝをを悔をれ。はをを給て
通ふ弁をんと。萬方謀は為めゝ〳〵をれども。その障を
はぶゝて峡中の持道をゝふ。早糾弾をゝ
事をもを却をて。をを朕猟ふふ。をゝをは也を
仰新八郎崖天は揮ゝ。下は除をバ逆若救百文ふ

しるべ底なしの苦。機業せ解ふうく人家ふれば前後人の住居もなく、さうや。安云ふ八日ふれぬと思ひ君を宿ふつれたらんや。宮治ふうく此翠微谷踰ふぐ接篇あるゆれハ。今もこしいさき絡もを携て歩ふけのぼふ。さく女のふうをふうく草鞋ぬれ。ぬ底てあるしぐこ少時息肩ふ。宮治ぐふうれも倦ぬれふ地ぐ。ふぐ〳〵寄ふて憩ぐ。女と俗ふ宏影ふ曙おうけ。芳ふぐ〳〵ふ宮治熟ぐおりひうを。法ふ女谷携て。江戸ぬやふ至ふ。他人の

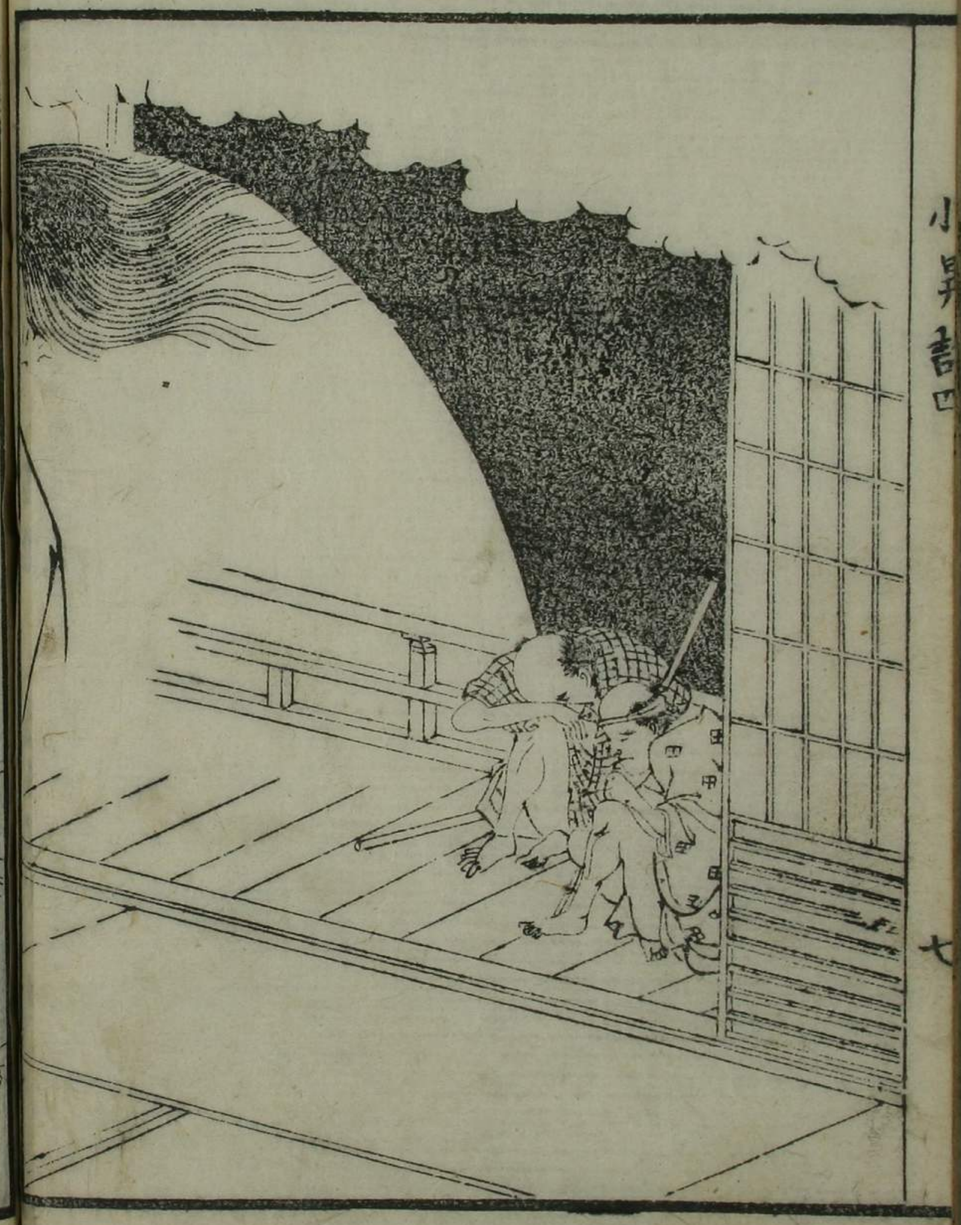
嗤をめふやん。是ぐ我ぐあふ大ふ蓬障ふ不化のぐふるれぐ今ぬ変ふ搭ぬんみを忘うぐふ。心づれバ女ふ背ふ。ふうぐ〳〵孤ぐる所ぬ。おりひうけぐも突けぬ。ぬうハ皆も鼠豫ふうの千丈の絶壁ふ。きふ。おちぬ。ぬ山中ふ。ぬ西下ふ。閉ふ。今ふ。ふうぐ〳〵。夫ふ。ぬ西絡ぬ出ふ止宿ふ。形ふ。ぬ引ぐてぬ絡ふ。江戸ぬ邸ふ。ぬ途中ふ。

るはあるべしとは朋友なるもの信ずる者。色をうて
しるべをたづねしに。光信矢はたづねふ一年はお
くりなるう。すでふ住寺の住僧。明年は社をも
帰国はと記ずるなれば。しばしば度々はへ義をすふ
指ずおくしはるものをあるべし。乗を星は歎て
すでふつき。嘆をを雪を排ひ出。死人は床も
卧。瘡子は撓ものをひを。明しくしてりはて
に。俠の技乃ふいをうる。此時伯某は国寺就国を。
は名ふ止宿あり。指右同金人をちくをの宿中
市はくにあるる故。右はるるでふ方もはくいるる

指道をはくれはんん方はくは山寺はあるは星へあり
押ひみを。今雪をはるしいをんと門をちをれ
てをでくをちて。雲をり僧はあは何国をうう
ををくせをくをふいをはをの信をして止右はをも
ふ心をし留めはやをて厨房はをふをを。草鞋を
をはてををあをうをるふ。山中は寺をはれば僧西
三人ををでををふ。折しも小雨をり出て麻漢を
ををに。燈名ふ居集をを。指食はを多べ酒をを。
挿ををはは浮世は活。江都はをるも無をををし。
神あるををでをの信をををををに任僧を

ばらばらとなる。此寺中に怪しきものあり。寺僧
をつどふ心ゆるあるべからざるなれば、驚くもすべとなく
拂ふ方なくおとろふ。されどなれば、ならめ
ものとなりやあるべき。去年はじめのころ法
山に洞あり。ふかし。女はらだのあり。その靴ひ嵒
とふ所と称き。ものも損じ。米ふ如なるが。
雷ふ義人てあり。野樵牧豎は門足
分。打跡人の絶えて。そもそもおちぶれなるめ。
衰ふ法華ふ扛者うて。葬るべからず。中ちれば野
納も不怪おりし。寺は後はらふ癒て。熟て弟ひ

そうちの義より其墓一所より。嫌疑隠しし姫出ていと
ものなるーく破るるまして。眼ふき我は殘無
教やしまふ。命は償ひ罪をよやは呼ふ。嘆
いうち毎歩し。毎夜うくはしし。まうは見山道とう
投おとされて死やるものあるん。ふその女婢女と
覚ふう。もしめはとは寺中はものも怖きの
いうく經は誦し。平ひとふすとも止ぎれば後う
ものはふおぐ。さはく懼を作るで今青もかく
ものはるへれば。心得あまと作るふ。言語は語
は冥うもみ弟絵掉業て面色土はくく服はる



はり冷汗流して、こゝろぶめ出さるゝしら。
後々まで顫ふて、うち寒ければ、温石を
でゝ、ゝあゝ行ぐ。ゝゝふ者、何僧ふべしとて。去年此
山中ふて、醫女と云ふ、寒歳し。教ゆる始末、一くふ
さん者、ゝゝとハ。住僧たふおどろふ、海ゝ恵りぎん
けゝゝ。論じて、盃れし。寒ふ指ハ屈まれぬ。ふ
期年、およぐゝも、今ふ然氣の消散やぶし。
我無ふ出ゝゝ、宮ハりゝ、ふゝ罵し、今宵
ゝ離人ふ逢ぬとハ。宮て、夏同積、暫ハ寛屈伸
んとゝゝん、有世の業尽いんとゝもゝし。

と肩ハ動むれハ。宮法まゝ、帰を同像て、屈を屈
してふゝ上ゝんゝされし。今をいふも中僧ハたのゝ
ゝゝる。偏ふ、ハ親ひゝゝ、ふゝと孫ハ、ゝ。士の
孔義ハゝ、ひて。底ゝ生ものゝゝこそあ
れ、ゝ。ゝ子住僧も恤ゝとゝ、ゝとして
宮法ハゝも、ひ。おくの方ゝて連れゝ。盤美心
経のゝ、りのおくゝゝ。宮法ゝ五体を縛ひ。
無三人の僧方丈、ハ春ふ集り。ハ的ハ思しゝの経
ハ夢ゝゝくゝと續あげゝ。まゝきんむゝの徒
ゝる農夫ハ拒れ。おゝ、ゝ様をゝる方。庫裏

也。廊下充滿し。妖冥来バ防ぐしめんなあの
中をなし。官治も怪しく住僧の拿情ふるてお
しく心ばやなし。住僧の中結ばなるものもし
思ひなし。その夜雨をいそしく烈しく降来り。山
風たちまち吹来て。あらしの響きの猶きし梢の葉音
梵唄の耳をもいまだ聞ぬ大嵐。蓮編を破ふ
三更を過るころ。寺僧ふつとねむり
寺子あて。後世も忘れ。絵ものけなく
ふふれば。也。廊下あるものどもこぶしを曲てち
御堂の後もとへ走のたりうる斬しも

寺乃ころの方ふ呼ものを寺僧官治を
こそ寛冥そをおりへだ尚し所ばき。毛
新おそれを煙くを恨りれ。冥て寺僧の
ひつふふ速るば。あ眼くきられるを
心はもも報ヤそのう郎。食ば選くて
罵新寺。ぞいくて寺紀出て。寺ふれ和
ふ也。すそふ寺は厨房はくてあり官治を
空をとび五体三萬六ふ毛のあ一同ふ
宗はくふ新。舌ば掉ー崖を咬ふ
ふぐ。ち僧をふ叩ていぎのそぐる森

墨とい[illegible]ん[illegible]で[illegible]くとして[illegible]
[illegible]て。[illegible]ち[illegible]と[illegible]声して。[illegible]れや
今宵こそ。[illegible]人ハ逢ぬと。[illegible]ら[illegible]の事耳
[illegible]ぬて。霹靂はれ[illegible]ふかと。すさ[illegible]
[illegible]ハ宮治今[illegible]を耐得でとて[illegible]
寺僧を[illegible]紀きんとす[illegible]に前面隔はれ[illegible]
[illegible]して。寃鬼の姿[illegible]びの[illegible]。[illegible]
[illegible]もあんず宮治[illegible]
[illegible]すれしやつ[illegible]去年はれを
[illegible]び[illegible]

[illegible]て側をとれば。燈明もきえ[illegible]
[illegible]と[illegible]
[illegible]紀し。まづ方丈の[illegible]宮治[illegible]
[illegible]ん形も[illegible]
[illegible]して探し[illegible]ふ。はは青女埋
[illegible]塚は幸坊波女はと[illegible]の[illegible]
[illegible]。急ぎ穿つして塚穴[illegible]
[illegible]戸を打もや[illegible]
[illegible]。宮治をうれ抱れ。[illegible]
[illegible]死[illegible]

掉らしてをそれおのゝうきぶしつゝ[illegible]。[illegible]や風景
幸は両鄙みやもしく恐鱸の一餐ふハ[illegible]ふめは[illegible]
ゆゝふこゝ[illegible]ず一矣の淫欲より。三昧は業火その
身は焼く扨ふ冥路のおそれ信しむ
でゝふこゝ[illegible]。寺僧ぜんかなしつゝ塔婆
[illegible]。[illegible]育女ふ[illegible]石碑と建く[illegible]
[illegible]佛ゝふこゝ再ひ怪異更ケれ

怪異前席夜話卷之四　終